

離島生活にわくわく

県体験事業で小学生出発



離島体験学習促進事業の出発式で保護者らに見送られて、写真撮影する児童ら＝26日、那覇市立城東小学校

沖縄本島の子どもたちが
離島で民泊し、住民らと交
流する県の「離島体験学習
促進事業」の出発式が26
日、那覇市の城東小学校な
どであった。同事業は、本

島の子どもたちに離島の問
題解決に向けた意識を芽生
えさせ、地域の活性化も狙
った初の試み。

城東小学校で、県企画部
の小橋川健二地域・離島統
括監は「沖縄本島も離島の
一つ。沖縄県を理解するこ
うことは離島を理解する
ということ。離島の魅力を
理解してほしい」などとあ
いさつ。

児童を代表し、5年生の
向井大瑛君が「皆で楽しい
思い出をつくらう」と呼び
掛け、上運天空君は「周り
の人々への感謝の気持ちを
持って楽しんできます」と

話した。

今回、城東小学校から伊
是名島と伊江島へ、泊小学
校からは久米島と宮古島
に、壺屋小学校から西表島
へ、高学年の児童がそれぞ
れ派遣される。2泊3日の
日程で、離島の住民や小学
生との交流、体験学習、民
泊などを計画しており、全
額を公費で負担する。

県は今回、予算や日程の
都合から、那覇市内の小
生を対象にしたが、来年度
は規模を大幅に拡大し、約
20の離島に本島全域から約
700人を派遣する計画を
立てている。